

<div>産業廃棄物処理計画書</div> <div>R6年 5月 10日</div> <div>富山県知事 殿</div> <div>提出者 住 所 富山県高岡市下黒田畑田742-3 氏 名 株式会社フタカワ 代表取締役 林 義人 電話番号 0766-24-4129</div> <div>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</div>	
事 業 場 の 名 称	株式会社フタカワ
事 業 場 の 所 在 地	富山県高岡市下黒田畑田742-3
計 画 期 間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①・事 業 の 種 類	総合工事業
②事 業 の 規 模	3 億円
③従 業 員 数	12人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<div><div>各工事現場</div> → <div>収集運搬</div> → <div>処理場</div> → <div>中間処理・再生利用</div><div>産業廃棄物発生          自社運搬・委託運搬          委託処理</div></div>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

組織図

代表取締役社長

環境管理責任者

工事部

総務部

社長：産業廃棄物の処理に係る事項の統括責任者

管理責任者：  
関連法規等の周知、環境活動の報告

総務部：収集運搬許可の更新  
マニフェストの保管・管理

工事部：マニフェストの交付・管理  
収集運搬・処理業者との委託契約の締結

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	建設汚泥
	排出量	851t	1,277 t
	(これまでに実施した取組) 現場にて、廃棄物の分別を徹底し、排出抑制に努めている。 また、再生砕石、再生材入りアスファルト合材、リサイクル認定製品 を利用し、循環型社会の形成に取り組んでいる		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	建設汚泥
	排出量	800t	900t
	(今後実施する予定の取組) 受注高、工事内容により廃棄物の年間排出量は増減する。しかし、分別の徹底を実施し、適正な処理及び再生利用に取り組み、継続していく。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) アスファルト、無筋コンクリート、有筋コンクリートに分別し、委託処理場へ搬出
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き、上記のとおり分別して委託処理場へ搬出する。

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
—			
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
—			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)  —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)  —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリートがら	建設汚泥
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	851t	1,277 t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 再生利用業者を選定し、契約締結を行った上で、委託処理をしている。 また、廃棄物の搬入に際してはマニフェストを交付し、相互で管理している		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	800t	900 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 引続き上記の取組を継続していく。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。